

【短報】栃木県に分布するニッコウチビミズギワコメツキについて

本種は原記載以降に追加個体がまだ採集されていないミズギワコメツキ亜科 (Negastrinae) の小形種である。このたび筆者の一人である大桃が栃木県大田原市今泉で1雌個体を見出したので、ここにその生態と形態の概要を報告することにした。

分類・形態の概要

本種は Kishii (1976) が、日光の丸沼で自身が見出した1雌 (4-VIII-1952) に基づいて *Pronegastrius* (*Chibistrius*) *nikkoensis* と命名、和名をニッコウチビミズギワコメツキとして新種記載をした種である。その後、大平・鈴木 (1985) が簡単な形態を紹介、稲泉ほか (2003) の目録には *Fleutiauxellus nikkoensis* の学名で記録している。また、Kishii (1999) は学名を *Zorochros* (*Zorochros*) *nikkoensis* として記録しているが、いずれも分布地や個体数の追加はない。

雌 (図)。体長は2mm内外。体は幅広く、黒色で光沢は鈍い。触角と肢 (ふ節暗褐色) は黒褐色。体背面は倒伏状の灰色短毛をやや密に様に生じる。

頭部は粗雑点刻を密に生じてあばた状。触角の末端は前胸背板の後角に達しない。第1節は楕円形状で第2節は棍棒状、第3節は倒円錐状で2節とほぼ等長、第4節から鋸歯状を呈する。前胸背板は弱い台形状で幅と長さはほぼ等しく、背面は緩く膨隆し、全面に頭部より小形点刻をやや密に生じ、正中部には平滑線や隆起線や凹溝などは生じない。後角部は三角形で後外方に短くとがり、各背面の側縁寄りに短い1隆起線を生じる。前胸腹側板は平滑状で凹溝は生じない。上翅の条線は明瞭に印する。肢のふ節と爪は簡単である。



その他

本種は大桃が、蛇尾川の岸辺の草付の砂を水中に投入したときに水面に浮かび上がってきた個体をドロムシ類、ハネカクシ類、アリヅカムシ類などと共に1頭だけ採集したもので、他にも若干個体がいたように記憶している。このことから、本種は河川敷の水辺の砂礫中に小集団で生息している種のように思われる。今後雄を含めたより多くの個体を検して、より詳しい雄形態や分類学上の

位置、生態を調査したいと考えている。

調査標本：1♀、栃木県大田原市今泉の蛇尾川河川敷、21-VI-2010、大桃定洋採集(図示した個体)。

引用文献

- 稲泉三丸ほか, 2003. とちぎの昆虫 (II) 栃木県自然環境基礎調査: 557 pp. 栃木県.
Kishii, T., 1976. New Negastrinae with some notes.-Some new forms of Elateridae in Japan (X)-. *Bull. Heian High School, Kyoto*, (20), 17-45, 6 pls., 1 map.
大平仁夫・鈴木 互, 1985. コメツキムシ科, 89. 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編著, 原色日本昆虫図鑑 (III). 500 pp., 保育社, 大阪.

(岡崎市舞木町 大平仁夫)

【短報】秋田県湯沢市におけるウスキボシハナノミの記録

ウスキボシハナノミ *Hoshihananomia kurosai* Chûjô et Nakane は、奥尻島から屋久島にかけて局所的に分布する大型のハナノミである。東日本における本種の記録地点は神奈川県から東北地方南部にかけては比較的密に分布するが、東北地方北部は分布の空白地帯となっている (高桑 2006)。しかし高桑 (2008) は、「未発表ながら秋田県での採集例もある」と述べている。筆者は以前、秋田県湯沢市で採集された本種の標本を高桑博士に同定していただいたが、発表せず放置していた。高桑博士が述べている「秋田県での採集例」とはこの標本のことと推測されるので、記録しておきたい。

1♂ (1982年, 高桑正敏同定), 24. VII. 1976, 秋田県湯沢市新町17番地(国土数値情報三次メッシュ番号 5840-53-89), 芳賀純採集・芳賀馨保管。

採集地点は湯沢高校に近い湯沢市中心街の南東端近くで、標高は約100m、東側には横手盆地の外周を形成する低山が迫っている。この低山は秋田・宮城県境山地に発して雄物川本流と右支川皆瀬川の間に入る分水嶺の末端部分で、標高は約300mである。潜在自然植生はブナ林と思われるが、1976年当時でも、その斜面はほとんどスギ植林に置換されていた。一方、市街地は江戸時代からの古い住宅地で、屋敷林を持つような旧家の比率が高い。上記の個体は、晴天・高温日の昼ころ、その一角にある樹木の多い戸建て住宅の庭に飛来したものである。

上記のように、採集地点周辺では山地より市街地の方が植物の多様性が高い可能性がある。本種は人家の庭に断片的に残存する自然植生に依存し